

平成 27 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終反省)」  
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立新巽中学校

平成 28 年 3 月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

生徒一人一人が自ら考え、判断して行動できる「自立力」と基本的な生活習慣を確立し、規律ある学校生活が過ごせる「自立力」を身につけるように教育実践を推進している。また、ICT機器を効果的に活用するなどして、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、習熟度別指導等の多様な指導方法を積極的に推進している。

**(1)全国学力・学習状況調査の結果から**

・平均正答率は、全国に比べて実施された教科全てにおいて10ポイントほど下回る結果である。記述式問題や短答式問題に関しては非常に正答率が悪くなり、その反面、無答率が全国平均と比較すると倍ほど増加する場合も見られた。しかし、生徒質問紙から注目すると教科に関しては、「好き」であると肯定的に感じている生徒は「国語」「理科」に関しては全国に比べても高い結果であった。「塾」に行っている生徒は全国平均より高いのではあるが、しかし、自主的に学習するということはできていない状況があり、一人ではなかなか学習ができない姿がある。

**【国語】**

・A・B問題に共通して、全領域にわたって正答率が低い。特に、「書くこと」の領域において、正答率の低さが際立っている。また、短答式、記述式の問題における無解答率が高く、全国との差が記述式で最大で2.6倍、短答式で最大5.7倍である。難易度がやや高い問題を解く意欲の乏しさが表れていると言える。

○言語活動・表現活動を支える語彙を増やすための学習に取り組んでいく。

○短文形式の課題作文を全学年通して取り組んでいく。

**【数学】**

・A問題に関しては中学1年生から正負の計算や文字式の計算など基礎的な計算に多く取り組んでいたので、他の分野に比べて正答率が高かった。しかし、全体的には大阪市と比べても正答率は大きく下回り、無解答率は非常に高い。特に、「関数」「図形」「資料の活用」では、文章を読み解く力の低い。

○家庭学習において、復習ができないため授業等の中で1年生からの基礎的な問題に取り組む復習プリントを行う。

**【理科】**

・2年生で学習した内容についての定着の悪さが見られた。また、教科としての課題というよりは、文章を最後まで読む力や表現する力に大きな課題がある。記述式問題やまた、計算力のいる問題の無解答率が非常に高く、初めから取り組めてない様子がうかがえる。

○基礎学力の向上・授業への積極的参加も含めて、きめ細かい授業をさらに進めていく。

○実験も多く取り入れ理科への興味・関心および探究心を高め、T・Tを含めた授業を展開していく。

**(2)生徒質問紙から基本的な生活習慣において**

・本校の調査結果からみると、家庭での時間の使い方に課題があるようを感じる。平日に4時間以上テレビを見る生徒が33%で、全国平均の15%に対して2倍以上の数字であった。同様な結果がテレビゲームや携帯電話、スマートフォンをする数字にも表れている。

・「休日での勉強量が2時間以上」「読書の時間」は全国平均の半分以下という結果であった。

・学習塾に通う生徒は多いが、家庭学習のいう意味において一人で勉強することができない生徒の多いことも課題である。

・「読書」という点でも図書室等にほとんど行かないという生徒が86%にも達しており、本校の課題が見

えてくる。また、授業において、さらなる学習活動の明確さの必要性が求められる結果となっている。

### (3) 大阪市統一テストの結果

- ・全教科について、大阪市の平均正答率を下回る結果となった。国語 4.8 ポイント、社会 8.5 ポイント、数学 4.2 ポイント、理科 2 ポイント、英語 7.7 ポイントと大阪市との平均正答率の差がある。得点分布から、理科以外で、50%以上正答できる生徒が少ないことがわかる。しかし、領域・観点・問題別の分布図から、各問題についての正答率は大阪市の正答率と差はない。
- ・各教科により違いはあるが、全体として「読む」「記述」「表現」の項目が、大阪市全体よりできていない。学習全般に影響する能力だけに、活字をしっかり読み解き、考えたことを自分で表現できる言語能力の育成が必要である。

#### 【国語】

- ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域では大阪市と同じか少しだが上回っているが、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」の観点からみても大差はない。領域の「読むこと」、「国語の特質に関する事項」、観点の「読む能力」、「言語についての知識・理解」が大きく下回った。

#### 【社会】

- ・すべての領域、観点で大阪市を大きく下回った。

#### 【数学】

- ・「関数」、「資料の活用」が大阪市と大きく差がある。また、「数学への意欲・関心・態度」や「数学的な見方・考え方」が大きく下回った。

#### 【理科】

- ・大阪市とほとんど差がない。記述式の問題がおおきく下回った。

#### 【英語】

- ・領域・観点・問題別の分布図から、各問題についての正答率は大阪市の正答率から大きく下回っている。

### (4) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（本校では、シャトルランを選択して実施した。）

#### 【男子】

- ・握力は大阪市平均を上回り、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げにおいては大阪市・全国平均を上回った。
- ・体力合計点 (44.00) では大阪市 (40.26) より 3.74 ポイント上回り、全国 (41.89) より 2.11 ポイント上回った。
- ・「運動やスポーツをすることが好きですか（やや好き）」84.7%（昨年 86.3%）と昨年よりも下回り、大阪市 (87.9%)・全国 (89.6%) よりも下回っている。
- ・「運動やスポーツすることが得意（やや得意）」65.2%（昨年 74.4%）で昨年よりも減少し、大阪市・全国よりも下回っている。「苦手」15.2%においては、大阪市・全国よりも約 6% 多かった。
- ・「体力に自信がある（やや自信がある）」は 37.0% で、全国 50.4% よりも低く、「体力に自信がない（あまり自信がない）」と回答している生徒の割合が高い。
- ・「運動は大切（やや大切）」は 89.2%、「健康に運動は大切（やや大切）」は 91.1% の生徒が大切だと回答している。
- ・「保健体育の授業は楽しい」と回答した生徒は 91.3% で大阪府 (83.7%)・全国 (88.2%) を上回っている。
- ・保健体育の授業で感じていることの中で、「たくさん動く（91.1%）」は大阪市・全国よりも約 4% 多く、それが体力合計点で全国を上回ることにつながったと考える。
- ・今後も授業内での運動量の確保、基礎体力の増進に努める。

#### 【女子】

- ・長座体前屈、20m シャトルラン以外のすべての種目で大阪府の平均を上回った。
- ・上体起こし、反復横とび、50m 走においては全国平均を上回った。
- ・体力合計点 (47.94) では全国 (49.08) より 1.14 ポイント下回ったものの、大阪市 (47.35) より 0.59

ポイント上回った。

- ・「運動やスポーツをすることが好きですか (やや好き)」72.7% (昨年 84.6%) と昨年よりも下回り、「嫌い (やや嫌い)」27.2% (昨年 15.4%) を上回っている。
- ・「運動やスポーツすることが得意 (やや得意)」49.0%で、「運動やスポーツすることが苦手 (やや苦手)」50.9% よりも下回っている。
- ・「体力に自信がある (やや自信がある)」は 29.1%で、約 3 分の 2 以上が「体力に自信がない (あまり自信がない)」と回答している。
- ・「運動は大切 (やや大切)」は 81.1%、「健康に運動は大切 (やや大切)」は 92.8%の生徒が大切だと回答している。
- ・「保健体育の授業は楽しい」と回答した生徒は 83.6%で大阪市・全国を上回っている。
- ・健康的に過ごすためには、運動することが大切であると考えている生徒が多いにも関わらず、運動が得意・体力に自信があると回答する生徒の割合が低いことがわかる。
- ・それに比べ、保健体育の授業は楽しいと回答する生徒が多く、保健体育の授業を通じて、運動の楽しさを伝えるとともに運動する習慣を身につけるような指導が必要である。
- ・「できないことができるようになるきっかけ」で、先生にコツやポイントを教えてもらったり、友達に教えてもらった、自分で工夫して練習したと回答する生徒もいる中で、「できるようになったことがない」が 7.0% と大阪市 (5.4%)・全国 (3.7%) を上回っている。その結果から、運動が苦手=嫌いな生徒へのきめ細やかな指導を行うことで、運動への苦手意識を減らし、できないことができるようになる喜びを味わわせるような指導を行う。また仲間と協力する大切さを実感させることで減少させていく。

#### 中期目標

##### 【視点 学力の向上】

- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる (ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 80% 以上にする。 (マネジメント改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。 (カリキュラム改革)

##### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・平成 25 年度～27 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を毎年 100% にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。 (カリキュラム改革)

##### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・毎年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を、毎年、前年度より増やす。 (カリキュラム改革)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 65%以上にする。 (マネジメント改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 65%以上にする。 (カリキュラム改革)

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・平成 27 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや暴力行為等の問題行動について、解決に向けて対応している割合を 100%にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 65%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 70%以上にする。 (カリキュラム改革)

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・平成 26 年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。 (カリキュラム改革)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

### 【視点 学力の向上】

- ・「授業はわかりやすい」の項目で、「よくあてはまる (ややあてはまる)」と答えた生徒の割合が 44.8% (1 年 45.2%、2 年 45.2%、3 年 43.8%) と目標の 65%を 20.2% も下回った。三学年とも目標を大きく下回ったが、昨年度 44.2% だったので横ばいである。
- ・「授業内容・方法を工夫している」と答えた生徒の割合は 65.9% (1 年 77.6%、2 年 54.3%、3 年 62.9%) であり、目標の 80%から 14.1% 下回った。昨年度は 61.4% でわずかではあるが増えている。1 年生が目標を上回る結果であった。
- ・他の項目では「真面目に授業に取り組んでいる」 74.5% (1 年 69.3%，2 年 68.3%，3 年 86.5%) 「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」 52.4% (1 年 58.6%，2 年 39.0%，3 年 57.3%) 今後の学力向上の取り組みを考える際に参考にしなければならない結果である。

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・「大きな声でいさつをしている」 61.0% (1 年 63.1%，2 年 47.6%，3 年 58.4%) 「学校の施設を大切にしている」 84.0% (1 年 91.4%，2 年 75.6%，3 年 83.2%)

- 「清掃活動に真面目に取り組んでいる」80.7%(1年86.5%, 2年78.0%, 3年76.4%)  
「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」60.8%(1年65.0%, 2年53.1%, 3年62.94%)  
「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」51.1%(1年61.5%, 2年43.9%, 3年55.1%)、以上の結果から道徳心や社会性がある一定身についていると考えられる。
- ・「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」60.7%(1年68.3% 2年54.9%, 3年57.3%)であった。来年度は問題行動・暴力行為の防止に向けての取り組みを重点的に行う必要がある。いじめに対する取り組みは今年度と同様に継続していきたい。
  - ・登校遅刻をする生徒は限定される傾向にある。進級をきっかけに遅刻をしないことが習慣化されるよう新年度当初からの指導が必要である。
  - ・「チャイムが鳴つたら着席する」「教科書やノート等の用意をきちんとする」「私語をしない」等の授業規律を順守しようとする意識が年度当初よりも低下してしまいがちである。年間を通じて高い意識が保てるよう、粘り強く指導していきたい。

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・「あなたは毎日朝食を毎日食べますか」(生活と食生活調査結果から) 必ず食べるは全体で71.5%で学年があがるにつれて朝食を食べない傾向がある。(1年90.0%, 2年83.3%, 3年84.6%)
- ・朝食は心とからだの目覚めを促進させ、脳の働きを活発にする大切なエネルギー源。朝食を必ず食べる習慣をつけさせていく。

### 第1学年

#### 【視点 学力の向上】

- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を65%以上にする。では、26.6%であった。
- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を65%以上にする。では、51.7%であった。

#### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・平成27年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや暴力行為等の問題行動について、解決に向けて対応している割合を100%にする。
- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を65%以上にする。では、75%であった。
- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を80%以上にする。では、96.6%であった。
- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を70%以上にする。では、58.3%であった。

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・平成27年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。では、男子80.6%、女子72.4%であった。・

## 第2学年

### 【視点 学力の向上】

- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を65%以上にする。では、39.2%であった。
- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を65%以上にする。では、59.8%であった。

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・平成27年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや暴力行為等の問題行動について、解決に向けて対応している割合を100%にする。
- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を65%以上にする。では、68.0%であった。
- ・平成27年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を70%以上にする。では、55.7%であった。

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・平成27年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。では、男子82.6%、女子70.9%であった。

## 第3学年

39期生86人の3年間は、友人関係でのトラブルやいじめ等がほとんどない学年であった。しかし、一部ではあるが校則違反や遅刻が多い生徒がいたり、入学当初からの学力の低さが課題として残った。以下は、生徒アンケート(回答率93%)と保護者アンケート(回答率67%)からの総括である。

### 【学習面】

生徒アンケートから、「まじめに授業に取り組んでいる」と考えている生徒が8割いる反面、「授業がわかりにくい」と考える生徒が5割、「わからない内容をそのままにしている」生徒が4割いた。また、「宿題がないと家庭学習が進まない」と考える生徒も4割いることから、自ら積極的に学習する意欲・習慣が少ない生徒が多いことがわかる。

「授業の工夫」「評価」においては、肯定的にとらえる生徒が6~7割に対し、保護者では7~8割に達していることがわかる。

### 【生活面】

「服装や決まりが守れている」との項目で、12.6%の生徒が当てはまらないと回答し、これは他の学年より多い。保護者での回答でも同じような傾向にあり、指導を受けることが多かったと意識しているからであろう。「清掃」や「校舎設備」については、「できている」と回答した生徒・保護者が他学年より多く、日々の生活の中で教職員が率先して活動した成果であると考える。また、対人関係において、「困ったときに相談する・信頼する」相手として、友人の割合がかなり高く、先生と回答した生徒は約半数であった。これは、保護者でも同様の傾向にある。また、家庭では、「子どもと話すよう努めている」と回答した保護者が9割であったのに対し、「子どもが学校のことを話す」と回答した保護者は6割にとどまった。

## 大阪市立新巽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
・平成27年度末の生徒アンケートで「まじめに授業に取り組んでいる」について、「良く当てはまる(ややあてはまる)」と答えた割合を65%以上にする。 (カリキュラム改革)	
・平成27年度末の生徒アンケートで「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を65%以上にする。 (マネジメント改革)	B
・平成27年度末の生徒アンケートで「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を65%以上にする。 (カリキュラム改革)	
・平成27年度末の生徒アンケートで「授業でわからないところは先生に質問しやすい」と答える生徒の割合を60%以上にする。 (カリキュラム改革)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【学力の向上 “授業内容（わかる授業）の充実”】 国語、数学、英語、理科において、年間を通じて計画的に理解度に応じた授業を実施する。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・生徒アンケートで「授業でわからないことなど気軽に先生に質問することができる」と答える生徒の割合を60%以上にする。	
取組内容②【学力の向上 “各教科の指導力の向上”】 研究授業を年間で一人1回以上行い、教員一人一人の授業力の向上を図る。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・研究協議をともなう研究授業を年間9回以上、また、研究授業を1年間に20回以上実施する。	
取組内容③【学力の向上 “自主学習習慣の確立”】 各教科での宿題、課題、作品等の提出物の指導を徹底する。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・各教科での提出率を100%をめざす。	

取組内容④【学力の向上 “読書活動の充実を図る”】

各学年で「読書活動」を計画的に実施する。

(カリキュラム改革)

C

指標

・校内アンケートで「学校の図書館をよく利用している」と答える生徒の割合を40%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 生徒アンケートで「授業でわからないことなど気軽に先生に質問することができる」と答える生徒割合が昨年は52.4%から今年度は47.2%に減少した。特に、小学校からの変化が大きい1年生の割合が一番低い傾向となった。(教務部)
- ② 1学期は6月に英語科と数学科の研究授業を10月に総合的な学習の時間の研究授業を実施した。また、全教員の研究授業を実施予定である。(教務部)
- ③ おおむね提出物は提出する生徒が多い。各教科で生徒さんに取り組みやすい内容の宿題や課題、作品の作成に取り組みを続けている。(教務部)
- ④ 週3回図書室を開館し、読書活動の定着につながる取り組みを実施している。(教務部)

次年度への改善点

- ① 小学校との連携強化や各教科での課題の出し方などにも工夫が必要である。(教務部)
- ② 研究授業の実施時期の再検討が必要である。また、研究協議の方法もさらに工夫が必要である。(教務部)
- ③ 放課後やテスト前の補充学習を引き続き実施し、授業についてゆけない生徒らへの支援をする。苦手意識の強い生徒に対しての辛抱強い声掛けや「やればできる」課題の作成などの取り組みが必要である。(教務部)
- ④ 学校図書館補助員や公立図書館と連携し、図書の精選を実施する。  
バーコードリーダーが導入され、さらに図書の整備を進める。(教務部)

## 大阪市立新巽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を100%にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成27年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を65%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成27年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> <li>平成27年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を70%以上にする。 (カリキュラム改革)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【その他“いじめ・問題行動への対応”】  相談活動を充実させ、生徒の変化等の早期発見・早期対応に努め、未然防止に努める。また、暴力行為のない学校づくりをめざす。 (カリキュラム改革)	B
指標  <ul style="list-style-type: none"> <li>年間に2回以上カウンセリング活動を実施したり、毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、実態把握を行い未然防止、早期発見・指導に努める。</li> <li>生活実態調査を実施し、生徒理解に努める。</li> </ul>	B
取組内容②【その他“基本的生活習慣の確立”】  朝のスタートを大切にし、時間を守る意識を高める。 (カリキュラム改革)	B
指標  <ul style="list-style-type: none"> <li>校内アンケートで「遅刻をしない」と答える生徒の割合を70%以上にする。</li> <li>生徒会活動を活発にし、「朝のあいさつ運動」などの自主活動を行う。</li> </ul>	B
取り組み内容3（その他“規範意識の育成”）  「遅刻、服装、忘れ物」等の指導を通して、自律した生徒の育成を図る。 (カリキュラム改革)	B
指標  <ul style="list-style-type: none"> <li>校内アンケートで「学校のルールを守っている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。</li> <li>授業規範について、講師を招聘して研修会を年1回実施する。</li> </ul>	B

<b>取組内容④【道徳心・社会性の育成 “道徳教育の充実”】</b> 心の葛藤を通して、よりよい生き方を求める態度を養う。 (カリキュラム改革)		B	
<b>指標</b> ・「道徳」の時間を 100%確保することをめざし、「道徳」の研究授業と研修会をそれぞれ年間 1 回以上は実施する。			
<b>取組内容⑤【その他 “豊かな心の育成”】</b> 芸術を身近に感じ親しむことで、豊かな感性を育む。 (カリキュラム改革)		B	
<b>指標</b> ・年に 1 回は、本物の舞台芸術を体験させる。 ・読み物教材の指導時数を昨年度よりも増加させる。			
<b>取組内容⑥【その他 “大阪らしさを活かした取組”】</b> 大阪市内の施設や史跡を実際に訪れることで、「郷土おおさか」を愛する心を育てる。 (カリキュラム改革)		B	
<b>指標</b> ・フィールドワークや調べ学習を行い、能動的な学習態度を養う。			
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
① 各学年で教育相談期間を年 2 回行いし生徒理解に努めるとともに、教師・生徒相互の信頼関係の構築につなげることができた。また、年度当初生「活実態調査」をおこなう予定だったが、「いじめ問題」が近年増加傾向にあるので、「いじめアンケート」に置き換え、各学期で 1 回以上実施した。いじめ・問題行動の未然防止、早期発見に努めることができた。(生活指導部) ② 生徒会活動で、本部役員や生活委員が主体となって「朝のあいさつ運動」に取り組んだ。また、登校指導を行うことで、基本的生活習慣を確立できるように努めることができた。(生活指導部) ③ 服装・頭髪の決まりについて、全校集会や学年集会で身だしなみをチェックをさせた。生活委員会でも各クラスで身だしなみチェックを行い、決まりを守る意識を高めることができた。(生活指導部) ④ 11 月 18 日に道徳の研究授業及び研究協議を実施した。多くの教員が研究授業、研究協議に参加することができた。(道徳特活性教育委員会) ⑤ 6 月 13 日（土）に国立文楽劇場で文楽鑑賞を実施した。道徳授業などで読み物教材を使用し、指導時数を増加させることができた。(教務部) ⑥ 6 月 13 日（土）の文楽鑑賞に先立ち、文楽について学習した。(教務部)			
次年度への改善点			
① 各学期で 1 回以上「いじめアンケート」を実施し、いじめ・問題行動の未然防止、早期発見に努めなければならない。また、「生活実態調査」を行い、生徒の生活実態を知る必要がある。 (生活指導部) ② 登校遅刻をする生徒は限定される傾向にある。生活習慣の改善を促す等、今後とも継続して指導していく必要がある。(生活指導部) ③ 「チャイムが鳴ったら着席する」「教科書やノート等の用意をきちんとする」「私語をしない」等の授業規律を順守しようとする生徒が昨年度より増えてきたが、一部意識が低い生徒がまだ見受けら			

れる。外部講師による研修会の開催し、自律心を持つ生徒の育成に努めていきたい。

(生活指導部)

- ④ 来年度は全学年、全学級で道徳の研究授業を行うことになっているので、年間計画をしっかりと立て、充実した道徳教育にしていく必要がある。(道徳特活性教育委員会)
- ⑤ 来年度も音楽や演劇などの鑑賞を実施したい。また、道徳授業だけでなく各教科でも読み物教材を活用させる授業を展開する必要がある。(教務部)
- ⑥ 図書室や I C T を活用し、教科や学年での取り組み等で調べ学習を実施したい。(教務部)

## 大阪市立新巽中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
・平成27年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を前年度より高める。 (カリキュラム改革)	B
・平成27年度末の校内アンケートにおいて「保健だよりを読んでいる」生徒の割合を前年度より高める。 (カリキュラム改革)	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【健康・体力の保持増進 “食育の充実”】 食育だよりの定期発行や、講師を招いての講話をを行い、食の大切さに対する意識を高める。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・校内アンケートで「健康のために食事を好き嫌いせず、残さず食べるよう気にしている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。	
取組内容②【健康・体力の保持増進 “体力向上への支援”】 体育の授業時に「体力づくりトレーニング」を継続的に行う。 (カリキュラム改革)	A
指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、昨年度を上回る項目を増やす。	
取組内容③【道徳心・社会性の育成 “男女共生教育の推進”】 視聴覚教材を効果的に用いて「性教育」の実践を行い、命の大切さに対する意識を高める。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・校内アンケートで「命の大切さについて学ぶ機会がある」と答える生徒の割合を高める。	
取組内容④【健康・体力の保持増進 “健康な生活習慣の確立”】 保健だよりを定期的に発行し、自己管理能力を向上させる。 (カリキュラム改革)	B
指標 ・校内アンケートで「健康に気をつけている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①食育だよりの発行、講師を招いての食育講話を行った。しかし、肯定的な割合は増えなかった。 ③ 12月7日にHIVと人権・情報センターから、HIVや性感染症についての話をしていただき、生徒アンケートでも自分の命を大切にすることを学ぶことができたと記入する生徒も多かった。また、性教育を道徳教育と合わせて学習する機会もあり、命の大切さを学んでいる。(道徳特活性教育委員会) ④保健だよりの定期的な発行を行った。朝食を摂る割合は、男子において10%程度の向上がみられた。	

しかし、女子はほとんど変化がみられなかった。

次年度への改善点

③来年度は性教育とは命の大切さこそ中心課題であることを再度取り組みに含めるように内容を検討する。(道徳特活性教育委員会)

# 平成27年度 学校関係者評価報告書

大阪市立新巽中学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

○「学力の向上」については、本校の現状として「全国学力・学習状況」の結果において、無答率が高く、平均正答率も10ポイントほど低い現状があるが、改善の方向になってきている。生徒アンケートでは、各教科について「好き」「楽しい」「分かる」という回答をする生徒の割合は高く、教育活動の改善に取り組んでいること結果といえる。

また、放課後学習、試験前学習、図書館活用のなど生徒の実態に即した活動も、継続的に行っている。保護者の要望に対し、学校が努力していることを理解してもらっている。課題として、学習の定着の必要性を感じている。

○「道徳心・社会性の育成」については、生活指導等を含めた学校の指導体制や取組みに対し、保護者から理解と評価がある。あいさつができる生徒が増え、服装や遅刻する生徒の減少など、規範意識について良くなってきていている。部活動の入部率も90%以上と高く、生徒の学校生活の重要な要素となっており、人間関係作りや人間形成について大切にしてほしい。

## 2 年度目標ごとの評価

### 年度目標：学力の向上

- ・「授業はわかりやすい」の項目で、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答えた生徒の割合が44.8%（1年45.2%、2年45.2%、3年43.8%）と目標の65%を20.2%も下回った。三学年とも目標を大きく下回ったが、昨年度44.2%だったので横ばいである。
- ・「授業内容・方法を工夫している」と答えた生徒の割合は65.9%（1年77.6%、2年54.3%、3年62.9%）であり、目標の80%から14.1%下回った。昨年度は61.4%でわずかではあるが増えている。1年生が目標を上回る結果であった。
- ・他の項目では「真面目に授業に取り組んでいる」74.5%（1年69.3%、2年68.3%、3年86.5%）「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」52.4%（1年58.6%、2年39.0%、3年57.3%）今後の学力向上の取り組みを考える際に参考にしなければならない結果である。

### 年度目標：道徳心・社会性の育成

- ・「大きな声であいさつをしている」61.0%（1年63.1%、2年47.6%、3年58.4%）
- 「学校の施設を大切にしている」84.0%（1年91.4%、2年75.6%、3年83.2%）
- 「清掃活動に真面目に取り組んでいる」80.7%（1年86.5%、2年78.0%、3年76.4%）
- 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」60.8%（1年65.0%、2年53.1%、3年62.94%）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」51.1%（1年61.5%、2年43.9%、3年55.1%）、以上の結果から道徳心や社会性がある一定身についていると考えられる。
- ・「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」60.7%（1年68.3%、2年54.9%、3年57.3%）であった。来年度は問題行動・暴力行為の防止に向けての取り組みを重点的に行う必要がある。いじめに対する取り組みは今年度と同様に継続していきたい。
- ・登校遅刻をする生徒は限定される傾向にある。進級をきっかけに遅刻をしないことが習慣化されるように新年度当初からの指導が必要である。
- ・「チャイムが鳴ったら着席する」「教科書やノート等の用意をきちんとする」「私語をしない」等の授業規律を順守しようとする意識が年度当初よりも低下してしまいがちである。年間を通じて高い意識が保てるよう、粘り強く指導していきたい。

### 年度目標：健康・体力の保持増進

- ・「あなたは毎日朝食を毎日食べますか」（生活と食生活調査結果から）必ず食べるは全体で71.5%で学年があがるにつれて朝食を食べない傾向がある。（1年90.0%，2年83.3%，3年84.6%）
- ・朝食は心とからだの目覚めを促進させ、脳の働きを活発にする大切なエネルギー源。朝食を必ず食べる習慣をつけさせていく。

### 3 今後の学校運営についての意見

- 入試改革の中、学力の向上をお願いする。
- きっちりと職につき、社会人として生活できる人間を作つてもらいたい。
- 今後も継続して規範意識の定着、道徳教育の推進を進めてもらいたい。
- 小中の連携が今以上に進むようにお願いする。
- 学校・地域・保護者が協力して子どもたちの教育を考えることが大切であり、より多くの情報発信をお願いする。
- 地域連携も視野に入れて、学校運営を行つてほしい。目の前の子どもたちをどう育てるか、今後も一体となって考えていく。